

現代の名工 県内4人に栄誉

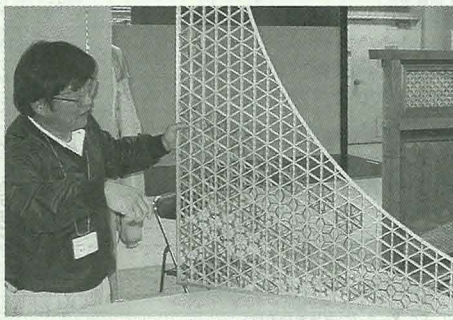
建築分野から木暮氏と高田氏

平成20年度卓越した技能者表彰式が11日、東京の明治記念館で執り行われ、150人が厚生労働大臣の表彰を受けた。本県からは、木製建築製造工の高田年三氏(57)、美容師の山田久美子氏(50)、塗装工上工の木暮実氏(57)、製図工の松木敏行氏(66)に「現代の名工」の称号が与えられた。この4人のうち、建築分野で功績を認められた木暮氏と高田氏にスポットを当てる。



デコラティブペイントの第一人者、木暮氏

建築塗装業を営む木暮氏は、デコラティブペイントの代表の先駆者。均一性が求められる一般的な塗装作業とは異なり、芸術性が高く職人の感性が問われる。デコラティブペイントは、ヨーロッパ王室の室内装飾面として始まり、アメリカやオーストラリアにも広まったとされる歴史ある装飾塗装で、特殊な工具を使って、壁面や物に「模様を描き出す技法」が求められる。一般的に、30代に入ってから本格的に取り組み始めたが、当時日本には教本がなかった。指導者もいなかったため、独学で試行錯誤を繰り返したという。国内の需要を掘り起こすためにはまず広く知ってもらう必要があると考えて、建設業界の中で



後継者育成に情熱を傾ける高田氏

の装飾塗装に興味を持ったのがきっかけだった。独立し、30代に入ってから全国各地を回り指導にあたり、ものつくりの自らの特殊技術としてとめなかったのは、国内の需要を掘り起こすためにはまず広く知ってもらう必要があると考えて、建設業界の中で

も塗装屋はほかの職種より下に見られることがあると感じ、デコラティブペイントが活躍する中で、塗装職人のイメージアップにつながればという想いも強かったという。

発泡スチロールも大理石に見せることができる「魔法の仕事」と語る木暮氏。今後、海外の住宅のデコラティブペイントを専らしの中に浸透させるため、イベントなどにも積極的に参加したいと語る。こうして習得した技術は、県内だけでなく、全国各地を回り指導にあたり、ものつくりの自らの特殊技術としてとめなかったのは、国内の需要を掘り起こすためにはまず広く知ってもらう必要があると考えて、建設業界の中で

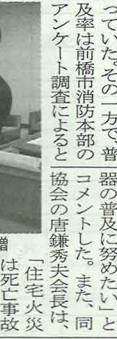
市長から感謝状

前橋市消防設備協会へ

前橋市消防設備協会は、前橋市消防本部に対して同協会が製作した住宅用火災警報器設置が各戸に取組む練習を設けたこと、煙の流れ方やそれに対する警報器の作動状況を見ることのできる、消防法の改正により

組子の名手であるの一言うまでもなく、後継者育成に熱心なご尽力を感謝いたします。純粋に「好き」なことで、塗装職人のイメージアップにつながるという思いも強かったという。定時制高校に通いながら、25歳で独立を果たした。徒弟制度があつて厳しかったが、大卒者と同じくスタートを切るには早く一人前にならないと思ひ、必死に頑張ったと当時を振り返る。しかし、今の若い人に昔の仕方ばかりではできない」と語り、職人のなり手が少ない現状は危うい、特に畑畑の分野から職人の世界に入らなくては身もたて体験している。昔は見覚えのある、一人前になるのに年数がかかってしまうから、今の子どもはやる気もなくしてしまっている。そこで始めたのが、一人の名工、高田年三氏も、釘を使わずに木を組み付ける伝統的な

小型のモデルハウス内に住宅用火災警報器が各戸に設置されており、既住住宅に於いても今年6月までの設置となつていった。その一方で、警報器の普及に努めたいとコメントした。また、同協会の唐康秀夫会長は、



「住宅火災は死亡事故につながる危険性が高い。警報器を寄贈して、危険性を高

が、自らの工場にやる気せると敬同士になり足の引張り合いなどで潰れる子が出てくる。お互い奮って指導を仰ぐ「組子研究会」毎週木曜日の夜、15年以上上回っているという。同研究会は、上下関係が切ない。競い合

金利(%)	融資手数料(円)
0.00	31,500
0.00	31,500
1.00	31,500
1.00	52,500
0.00	31,500
1.00	31,500
1.00	52,500
0.00	31,500

フラット35 11月金利

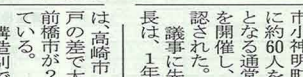
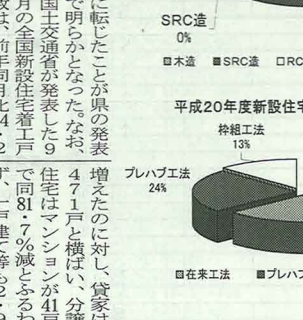
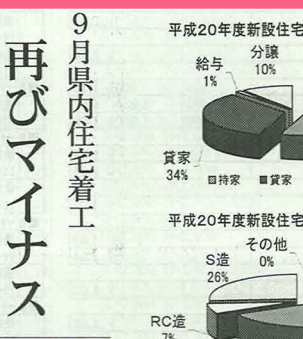
住宅金融支援機構は、フラット35の11月実行金利を明らかにした。

長期固定金利住宅ローン	金利を明らかにした。
21年以上35年以内	金利(%)
0.00	3.24
0.00	3.24
1.00	2.89
0.00	3.10
0.00	3.19
1.00	2.89
1.00	2.89
0.00	3.15
0.00	3.24

再びマイナス

9月県内住宅着工

9月の県内新設住宅着工数は、前年同月比で40%程度にとどまっています。消防本部では、今回春贈された5棟のモデルハウスを5カ所の消防署に設置し、イベントなどで普及活動に活用していくとしています。



腕を磨いている。自分の子どものように、本気で物をつけて育ててきた。ものを言うて育ててきた。心をつなげてきた。こういう活動が認められるのを引寄せたい。今、19年度的全投連「イッパ」にも認定された。今回の表彰について高

田氏は「名工は自分のためだけにではなく、若い人にも何で教えられる人格者にならないといけない。今、気を引き締める。今後後継者育成に重点を置きながら建築業界を牽引していく。